

まなづる 海の月報

トピック 真鶴の海

真鶴にもやってくる？漂着軽石



沖縄に押し寄せた軽石。湾奥まで入り込んでいる(左)。沖縄の漂着軽石拡大写真。黒い粒子を含んでいるのが確認できる(右上)、11月8日沖縄本島北部で撮影。真鶴の海岸でふだんから見られる軽石(右下)。

10月中頃から沖縄の海岸や港に軽石が大量に漂着し、漁業や観光にも大きな被害や影響をもたらしています。この軽石は、8月中旬に発生した小笠原諸島の海底火山 福徳岡ノ場の噴火で噴出したものです。軽石は内部に気泡が多いので軽く水に浮くため、海流や風に乗って太平洋を漂流し、沖縄本島周辺に押し寄せました。その後、黒潮に乗って北上し、現在は伊豆諸島や房総半島で確認されているので、そろそろ相模湾に入り、真鶴の海岸にも流れ着くかもしれません。

漂着軽石を探して真鶴の海岸を歩いてみると、意外なことにいくつもの軽石を見つけることができます。実は、軽石の漂着自体は珍しいことではなく、過去の海底火山の噴火で噴出したり、軽石層が削られたりしてできた軽石が普段から流れ着いています。

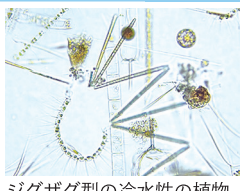
福徳岡ノ場の軽石かどうかを見分けるのは難しいようですが、直径数mmの黒い粒子を含んでいることや、ある程度まとまった数で漂着することなどが特徴のようです。大量漂着による漁業や生態系への被害は心配ですが、遠くの家からやってくる漂着物として調べてみるのもおもしろいでしょう。

今回の軽石の漂着は、遠くの家のできごとが身近な海にも影響するということを学び、海がつながっていることを実感する機会にもなりました。軽石以外にも、海のプラスチックゴミやタンカー座礁等による重油流出事故も、身近な海の汚染につながる問題として気に留めておく必要があります。

真鶴の海況

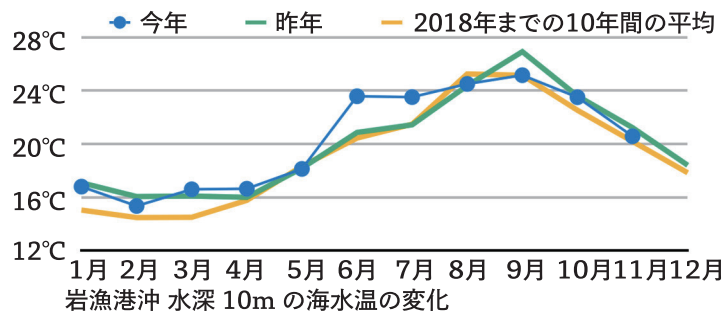
海の中にも、徐々に冬が近づく

岩漁港沖水深10mの11月の海水温は20.6℃でした。10月よりも約3℃下がり、海中も少しずつ冬に近づいているようです。11月21日に開催した「真鶴自然こどもクラ



ジグザグ型の冷水性の植物プランクトン(11月20日撮影)

ブ」(真鶴・湯河原子ども向け自然観察イベント)でプランクトンを観察したところ、冷たい海に生息する種類も多く観察できました。<情報提供：横浜国大臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

夏の魚がまだ獲れる…海水温が原因か



トビウオのなかま(体長約25cm)

真鶴町漁協の定置網では、今年7月から不漁が続いき、11月に入ってもなかなか水揚げ量は増えませんでした。水揚げされる魚種もトビウオやサワラといった春から夏の魚が混じり、例年と異なる漁獲状況となっています。11月下旬になると水温が下がり、ようやくサバなどの秋らしい魚も増え始め、今後の回復が期待されます。

今回紹介するのは、季節外れで水揚げされたトビウオです。日本だけでも30種ほどいるトビウオ科の魚をまとめて「トビウオ」と呼びます。広げるとまるで翼のように大きくて長い胸鰭を持ち、それを使って海面上を、100m以上にも渡っても飛び続けることができます。昔から食用としての利用も盛んで、主に日本海側では「あご」と呼ばれ、風味豊かな出汁や練り物に、伊豆諸島では保存食のくさやにされます。身はあっさりしており、真鶴ではたたきにして食べるのお話を参考に、薬味と和えて美味しくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 12月中旬～1月のイベント

1月19日(水)海まちらボ海トーク 講師:渡部裕美さん(JAMSTEC) 町民センター3階 講堂【要申込・無料】

町立遠藤貝類博物館は12月、1月は土日祝のみの開館となります。詳細はHPをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。